

米山月間によせて

米山奨学委員会
委員長

福田 治夫

(守ロイブニングRC)



平素は米山奨学事業に対して多大なるご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、今年は元米山奨学生から3人目のガバナーが台北に誕生しました。米山奨学事業は、将来母国と日本の懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生に奨学金を授与し、勉学を応援することを目的としています。また単に、奨学金を振り込むのではなく、例会に出席しロータリアンと交流し、カウンセラーより直接手渡しをする「face to face」も大きな特徴です。

米山奨学事業は60有余年の歴史を持つ、国際ロータリーが認める日本独自の「他地区合同奉仕活動」であり、日本最大の民間国際奨学事業でもあります。

2660地区では、会員皆様からの浄財として、昨ロタリー一年度(6月末日)の寄付金額が87,428,200円で一昨年度に比べ4,201,140円増額しています。また、会員一人あたりの平均寄付額が23,907円で1,316円の増額、特別寄付者割合も69.9%から71.3%に伸びました。これらの数字が地区奨学生配置人数の算定基準になります。

2016年度4月の配置人数は2014年6月末の寄

付金額で決まり、6名増の40人になります。委員長・カウンセラー会議で提案しました「コ世話クラブ制度」すなわち世話クラブ複数化制度を希望クラブに導入すれば当委員会の長年の夢である「全てのクラブに米山奨学生の配置を」により一歩近づきます。

2017年度も、同等の人数が期待されます。

2018年度もこの人数を維持したいです。また2015年度は奨学生受け入れ希望の50クラブに対して29名のみの配置で、21のクラブには配置出来なかったことの解消も含め、本年度も一人当たり30,000円の寄付金目標とさせていただきます。

最後に、一人でも多くのロータリアンに米山奨学事業のファンになっていただきたく、大学等の奨学金担当者へ国際交流と理解の多様性を求めるために、いろいろな国から「米山奨学生にふさわしい学生」を推薦していただけるように情報交換会も実施しております。

留学生の支援・交流を通して国を超えた信頼関係を築き世界平和を願う心を育てるという米山奨学事業にさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。